

特定術式における手術開始1時間 以内の予防的抗菌薬投与率

99.5 %

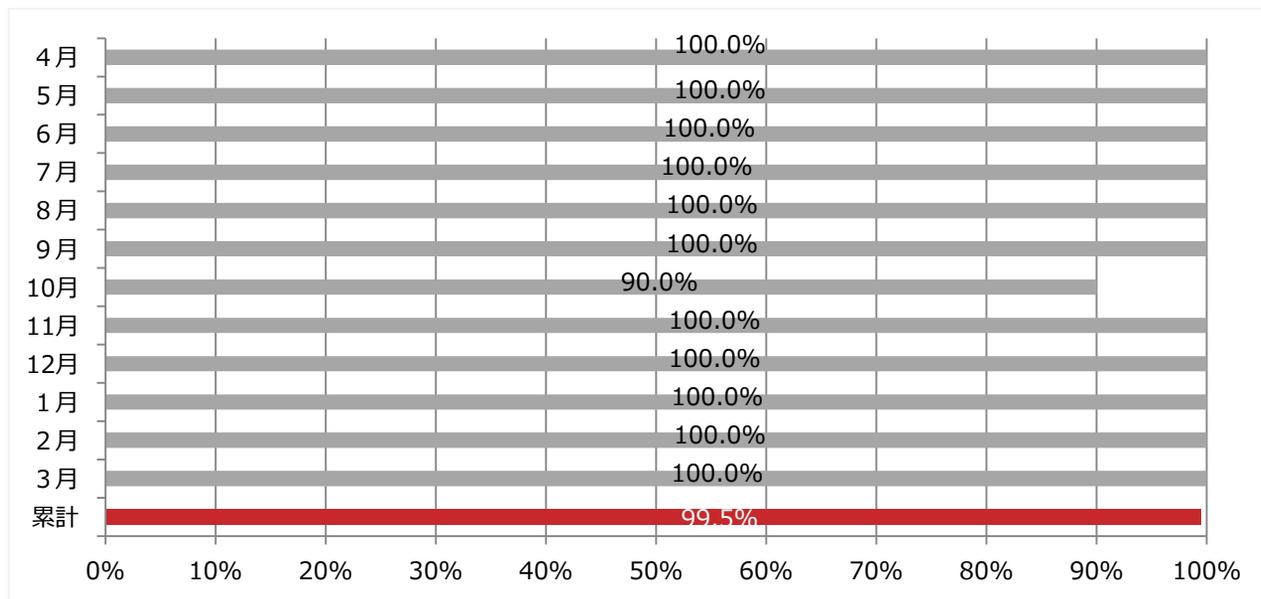
(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

手術後に、手術部位感染（Surgical Site Infection : SSI）が発生すると、入院期間が延長し、入院医療費が有意に増大します。SSI を予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があり、手術開始から終了後2～3 時間まで、血中および組織中の抗菌薬濃度を適切に保つことで、SSI を予防できる可能性が高くなります。このため手術執刀開始の1 時間以内に、適切な抗菌薬を静注することで、SSI を予防し、入院期間の延長や医療費の増大を抑えることができると考えられています。

2013 年度からThe Joint Commission のNQF-ENDORSED VOLUNTARY CONSENSUS STANDARDS FOR HOSPITALCARE のSurgical Care Improvement Project(SCIP)の SCIP-Inf-1 に準拠した定義に変更しました。手術前に感染症のあることがわかっている患者は除外し、術式も冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘除術の7つの術式における手術開始1 時間以内の予防的抗菌薬の投与率を示しています。注射薬だけでなく内服薬も抗菌薬の対象としています。（日本病院会）

(特定手術件数：195件)



値の算出方法

(手術開始前1時間以内に
予防的抗菌薬が投与開始された手術件数) / (特定術式の手術件数
股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術) × 100 (%)